

大人のチカラ

9

～子どもたちの未来のために～

子どもの感性を育てる①

現場から見える 「生活体験の大切さ」

社 会環境の変化に伴い、子どもたちは日
常の生活や自然などを通じて体験を積
み重ねることが少なくなっているようです。
1 回目は、香川県国公立幼稚園長会長で
国分寺北部幼稚園園長の山崎真理子さんに、
生活体験の大切さについてうかがいました。

体験通じて 成長する子ども

人は日常のさまざまな体
験を通じて大きく成長して
いきます。「子どもたちは自
然と触れ合うことで生命の

神秘を感じたり、感動を得
ます。また、生活の中では、
家の人の手伝いをするこ
とで、人の役に立つことの素
晴らしさを感じたり、優し
い気持ちを育んだりします」と
山崎さん。さらに「直接

関わることで子どもたちの
感性が育ちます。体験が多
い子どもは考え方や物の捉
え方が豊かで、自分で考え
行動することができるよう
です」とも。

環境の変化で 体験の機会も減少

子どもたちはより多くの
体験を積むことが望まれま
すが、社会環境の変化によ
って、その機会が少なくな
てしまっているのが現状の
ようです。山崎さんは「保
護者は日々忙しく、ゆった
りと子どもたちに付き合う
時間やゆとりがなくなっ
ています。手間がかかるため
手伝いをさせなかったり、
大人が必要以上に手を掛け

てしまっているのでは」と
現状を分析します。

また、子どもたちを取り
巻く環境の変化も影響。「防
犯面の安全から子どもたち
の生活範囲は大幅に狭くな
り、身近な自然と触れ合う
機会も少なくなっています。
さらに核家族化の傾向から
人間関係の幅も狭く、親子
やきょうだいとしか関わり
がないという子ども
も増えていま
す」と現状に危機
感を募らせます。

夏休み利用し 親子で体験を

山崎さんは保護
者に対し「子ども
たちが直接体験し

たものは人生の糧になりま
す。休日に一緒に散歩するだ
けでも、交通ルールを学んだ
り、身近な自然と触れ合う機
会になります。子ども時代は
短いですから、少しだけ付き
合っただけで「ください」と
メッセージ。夏休みを利用し
て、親子でいろいろな体験
をするように呼び掛けてい
ます。



協力／香川県教育委員会
香川県国公立幼稚園会 山崎真理子さん